

令和6年度 第4回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月21日（金） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、 鈴木 悦子、 尾上 弘、 名倉 善郎、
酒井 里江子、 宮下 まゆみ、 鈴木 俊哉、 劉 志奈、
田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校 渡瀬 益章（校長）、青島 正和（教頭）、平野 大輔（CS 担当教諭）
石津谷 訓子（CS ディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CS ディレクター 石津谷 訓子
- 8 議長の選出

司会の教頭青島から、議長の選出について会長に確認したところ、尾上副会長を推挙し全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- （1）学校関係者評価について
- （2）来年度の学校運営基本方針について
- （3）学校運営協議会の自己評価について

10 会議記録

司会から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価について

教務主任の鈴木から学校評価アンケート結果に基づいた考察と、今後の課題の報告があった。

- ・ 「誰もが暮らしやすい教室にするための3箇条」とは具体的にどんなものがあるのか。
（俊哉委員）
→ 友達の意見を否定しない、誰にでも明るく挨拶をしよう、自分を大切にする等、各クラスで決めた3箇条になっている。職員室前の廊下に掲示してある。（渡瀬校長）
- ・ 「学級の子とは話しやすい。」という項目があるが、他の学級の子との交流はしや

すいのか。(俊哉委員)

→ 他の教室への入室は許可していない。各フロアにベンチ付のL字スペースがあり、他の学級の子との憩いの場になっている。(渡瀬校長)

- ・ 「学級の子とは話しやすい」という項目で、そう思うと答えた子が昨年度の2倍近くになった。どんなことが影響していると思われるか。(尾上委員)

→ 今年度から水曜日の放課後に、学級運営委員会というクラスの課題を話し合う学級会のようなものを定期的に行っている。そういったことも、少なからず影響しているかもしれない。(平野)

- ・ 「学校に来る目的が友達に会ったり話をしたりすることである。」とあるが、勉強をすることが目的だとは思いますが、次に大切なのは友達に会って話したりすることだと思う。友達との関わりは心の財産になると思うので、ぜひ伸ばしていって欲しい。

(悦子委員)

- ・ 「学校に来る目的が友達に会ったり話をしたりすることである。」で、そう思わない5%、あまりそう思わない1%となっているが、それは否定的な意味ではなく本来は勉強という意識を持っている子達の結果かもしれない。(劉委員)

- ・ 「授業の中で、自分の考えや意見を伝えることができる」「他者を思いやる気持ちが、それを言葉や行動で表すことができていると思う」の2項目の結果が似ている。これは自分の言いたいことを上手く言葉にすることができないという、国語力の問題も関係しているかもしれない。(劉委員)

- ・ 一人一人が発表する機会が増えると良い。少人数は意見を言いやすい環境をつくれるし、言葉が出てこない時に他の子が補ってくれる。そうした事が対話の授業に繋がっていくのではないかと。(尾上委員)

- ・ 自分の意見をまとめ、グループになって話し合い、修正して答えを導くという授業があり新鮮だった。(酒井委員)

- ・ グループでレポートを発表し、その場で評価した紙を渡すという授業を参観したが、相手に伝えることを意識し、自信を持った発表ができているかが分かりやすかった。それに対して聞く側も評価しなくてはならないので、理解しようとする姿勢が見られ互いにブラッシュアップできる授業だった。(劉委員)

- ・ アンケートの結果で、1%となると少ないと感じるが、生徒が500人いれば5人になる。いじめについての心構えとして、パーセントの数値だけでなく実際の生徒の人数を見てフォローアップをしていきたい。(尾上委員)

- ・ 学校への相談件数は増えているのか。(俊哉委員)

→ 年3回のいじめアンケートを実施しているが、1学期と比べると件数は減ってきている。来年度はアンケートと合わせて、全員が担任と二者面談を行う予定でいる。いじめの訴えがあった生徒に対しては内容を聞き、訴えがない生徒に対しても、本当にはないか、いじめだけでなく他に困っていることはないかを聞いていこうと思っている。

(平野)

- ・ 「悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれ」をしてしまっている子が6%いること

が気になる。(名倉委員)

→ 裏でいじめをしている子が6%ということではなく、すぐに諭す指導をしているのでいじめだと自覚した子が含まれている可能性もある。学校が把握していないものがないとはい切り切れないが、小さいことでも対応するようにしている。2学期のいじめアンケートでは件数が多かったが、3学期では生徒の訴えは0件だった。(青島教頭)

- ・ 教職員アンケートの「『いじめは絶対に許されない』ということ、機会をとらえて指導している。」とあるが、機会とはどういったことか。(田嶋委員)

→ 年3回のいじめアンケートや、普段の生活で生徒に傷ついている様子が見受けられたり、訴えがあったりした場合などの、初期対応を迅速にすることがそれにあたる。

(青島教頭)

- ・ 掲示で「とかげになるまで」と書かれたクラスがあった。生徒にどんな意味なのか質問したら、「とかげは尻尾を切ってもすぐ生える。自分たちも失敗してもすぐ立ち直って成長していけることを目標にしている。」と答えてくれた。すぐに説明できることにも感動した。(宮下委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 来年度の学校運営基本方針について

校長渡瀬から、来年度のグランドデザインを基に学校運営基本方針の説明があった。

- ・ 近年、コロナやICT教育の導入により個の授業が増えた。ようやくグループ活動ができるようになったので友達との関わりが上手になると良い。ディベートや議論ではない「対話」が、普段の授業で慣れて当たり前になると良い。(尾上委員)
- ・ 社会に出てからもコミュニケーションは大事なので、学校で理想に近づくような対話ができたら素敵だと思う。(宮下委員)
- ・ 「心理的安全性」の環境下だと安心して発言ができ、その中だと新しい発見や発想が豊かになりやすい。生徒が教わるだけでなく、子供にしかできない発想を発信していくような授業を期待している。(尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己評価について

- ・ 学校と相談しながら必要に応じて進めることができた。(尾上委員)
- ・ 小学校のボランティア登録をしている方を、中学校と共有してはどうか。(宮下委員)
→ 登下校の見守り等のボランティアもお願いするかもしれない。(青島教頭)
- ・ 協議会の情報発信も、学校ホームページやCSだよりを通して出来ていると思う。
(宮下委員)
- ・ 生徒の生の声を聞く機会が少なかったなので、生徒会の子たちも協議会に参加させるのはどうか。(俊哉委員)
- ・ 毎回別の教職員の方が、この協議会に参加して雰囲気を感じてくれるのも良い。

(尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

○ その他報告事項等

田嶋委員から、蒲小学校でボランティアをしている方を共有させてもらいたい旨の報告があった。

教頭青島より、夢育やらまいか事業（CS加算分）についての報告があった。また来年度第1回運営協議会は令和7年5月9日（金）に開催予定である旨の報告があった。